

年間第十一主日

マルコ 4・26-34

2018.6.16

高円寺教会 18:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

2007年に一緒に住んでいた神父様が80代で亡くられました。その後、一人で一年間そこに住むようにと言われました。修道者なのに一人暮らしをすることになりました。そして、神父様がこの世に残していった畑の野菜の世話をすることになり、それがわたしの日課となりました。朝6時に起き、2時間畑仕事をして、8時にミサを一人で捧げて、その後に食事をするというルーティーンとなりました。亡くなった神父様が植えた豆の収穫が終わると、畑を遊ばせるのももったいないので、野菜の栽培について書かれている古本と種を買いました。本に書いてある通り土を作って、種を植え、寒さや虫にやられないようにトンネルを作りました。毎日畑の状態を見て、雑草を取ったり害虫を補殺したりという毎日を過ごしました。色々作ってみたのですが、成功したものも失敗したものもあります。いろんなものが収穫できました。玉ねぎ、ニンニク、苺、グリーンピース、そら豆、枝豆、トマト、きゅうり、茄子、とうもろこし、スイカ、メロン、他にも色々作りました。これらを自分一人の力で成し遂げた気になっていたのですが、今日の福音には、人が寝ている間に土が育てると書かれています。だから、自分の力ではなく、寝てる間に土が育て、種が育つ力を持っているということです。わたしが自分の力で育てたつもりになっていたけれど、そもそも種の方に力があって、土が育ててくれたことを、今日の福音から思い知らされました。

聖書の中では、人が寝ている間に神様お一人だけが働かれている状態が描かれています。例えば、アダムからエヴァが創られるときに、人は深い眠りに陥らされ、人が寝ている間に新しい命が生まれる。それからアブラム（アブラハムと改名される前の名前）が神様と契約を結ぶときにも、アブラムが寝ている間に神様お一人だけが契約を結びました。神学では難しい言葉で「神的受動態」と呼ぶそうです。神様お一人が働かれている時、人間はそこに立ち入ることができないそうです。神聖な時というのは、とにかく人は寝ていることしかできない。人が寝ている間に一番必要ことを神様がしてくださることが、聖書の中

に何度も描かれています。神の国の成長は、植物イメージで語られていて、人の努力によって実現できるものではないと言われます。しかし人は弱いので、神の力ではなく、人間の努力によって見える結果が生まれるのだと勘違いをする。洗礼の数とか集会の規模など、人の力では測れない神の働きを数字のような功利的な方法を用いて測り、勘違いをしてしまいます。

畑の実は種の育つ力と土の力によるもので、わたしはその植物のお世話をしたに過ぎません。そしてそれは野菜だけではなく、神の国もまた同じであることを教えてください。わたしたちの力を超えた方はわたしたちが眠っている間に神の国を成長させてくださいます。

インドの詩人のタゴールという人は、涙で枕を濡らすことのない人は真理を知ることはできない、と言われます。神の国はわたしたちの力によって理解することはできず、自らの弱さを知ったときに理解できることに感謝しながら共にこのミサを捧げましょう。